

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 119号

2014/11/17 発行  
株式会社 立花商店  
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：前半は反発するも、後半は両市場とも続落＝供給量に安心感

① 最高3月 LDN 市場£1,919 /3月 NY 市場\$2,919 (11/11) 先週比 **LDN+£17/NY+\$36**  
② 最低：3月 LDN 市場£1,863 /3月 NY 市場\$2,797 (11/14) 先週比 **LDN-£7/NY-\$59**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£56 (傾向↑) / NY 市場\$122 (傾向↑)  
週内建玉推移：LDN市場 242,965枚(11/7終了時)⇒243,099枚(11/13終了時) **+134枚**  
NY市場 181,632枚(11/7終了時) ⇒171,858枚(11/13終了時) **-10,174枚**

#### 【11月10日(月)】両市場とも3日続伸

ニューヨーク市場は投機的なショートカバーの買いが入り3営業日続伸。3月きりは11ドル(0.4%)高の2894ドルで引けた。ロンドン市場も3営業日続伸。3月きりは1ポンド(0.1%)高の1903ポンドで取引を終えた。

#### 【11月11日(火)】両市場とも4日続伸

ニューヨーク、ロンドンともに4営業日続伸。12月きりと3月きりのスプレッド取引が活発化した。ニューヨーク市場の3月きりは25ドル(0.9%)高の**2919ドル**、ロンドン市場の3月きりは16ポンド(0.8%)高の**1919ポンド**でそれぞれ引けた。

#### 【11月12日(水)】両市場とも大幅反落

大幅反落。カカオ豆の最大生産国のコートジボワールでの豊作が背景。ニューヨーク市場の3月きりは、52ドル(1.8%)安の2867ドルで引けた。主要支持線の2905ドルを割り込んだことで、ストップロスを受けた売りが加速した。ロンドン市場の3月きりは、34ポンド(1.8%)安の1885ポンドで引けた。

#### 【11月13日(木)】両市場とも続落＝手じまい売り

両市場とも続落。

ニューヨーク市場の3月きりは活発商いの中、テクニカルな手じまい売りから大幅続落。2番ぎりとしては9カ月半ぶりの安値の2780ドルを付けた後、下げ幅をやや縮小し、46ドル（1.6%）安の2821ドルで終了した。米国のココアディーラーは「手じまい売りが多く出たと同時に、新たな空売りも出た」と説明した。ロンドン市場の3月きりは、5月以来の安値の1844ポンドを付けた後、12ポンド（0.6%）安の1873ポンドで引けた。

### 【11月14日(金)】両市場とも続落

両市場とも続落。テクニカル面で弱気が示される中、コートジボワールの潤沢なカカオ豆の供給が圧迫要因。ニューヨーク市場の3月きりは、24ドル（0.9%）安の**2797ドル**で引けた。前日は、9カ月半ぶりの安値となる2780ドルを付けた。ロンドン市場の3月きりは、10ポンド（0.5%）安の**1863ポンド**で取引を終えた。前日は、5月以来の安値となる1844ポンドを付けた。

## 2、ナイジェリア：オヨ州のカカオ豆生産量は6万トンに達する見込み(11/13)

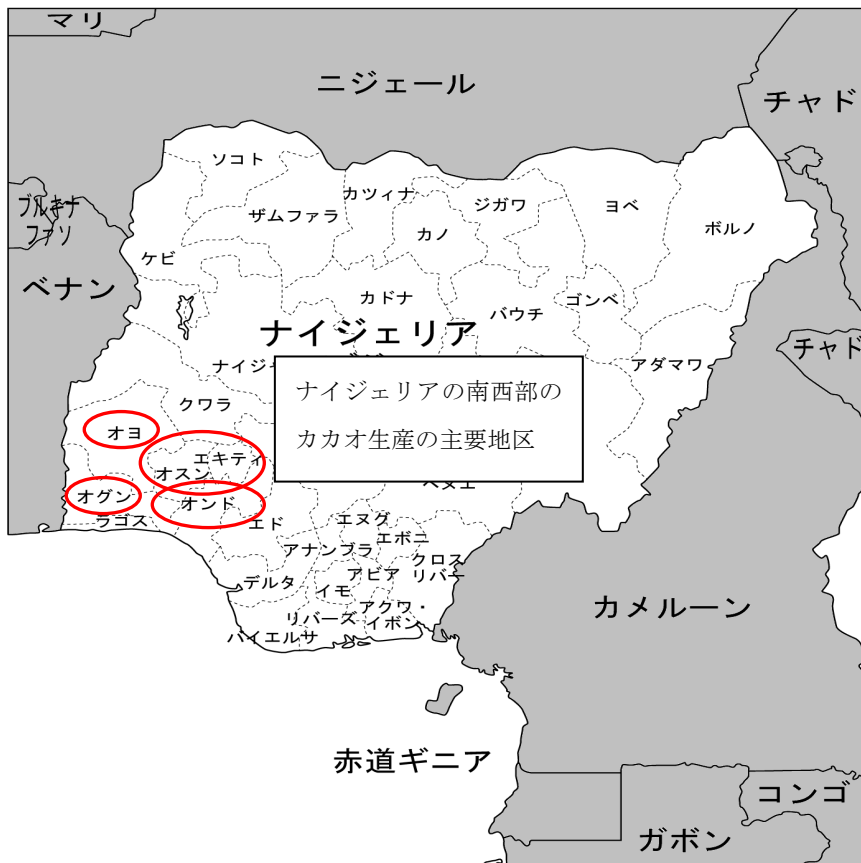
ナイジェリア南西部のオヨ州では、病気に耐性のあるカカオの品種の導入により、2015年のカカオ豆生産量は6万トンに達する見込みである。

同国のカカオ生産部門の統括マネージャーの Gabriel Kehinde 氏は、2013年度のカカオ豆生産高は前年の4万5000トンより伸びて4万8000トンとなったことを公表した。なお、2014年度の数字はまだ集計中である。

彼は「オヨ州政府は今年、病気に耐性がある品種の苗木を100万本も無料で農家に提供してきた。このように我々はカカオ豆生産量UPという目標を達成するために日夜努力している。2015年には現在の生産量である5万8000トンから6万トンへ伸ばすことを目標に掲げている。」と述べている。

オヨ州はナイジェリア南西部でオグン州、オスン州、オンド州、エキティ州に並ぶ主要なカカオ豆産地であり、この南西部の地域だけでナイジェリアのカカオ豆生産量のやく70%を占めている。現在のナイジェリアでは年間約30万トンのカカオ豆が生産されている。

またナイジェリアはコートジ、ガーナ、インドネシアに次ぐ世界第4位のカカオ豆産国で、2015年までに国全体で年間50万トンの生産量を達成する為、National Cocoa Transformation Program に乗り出した。



### 3、バリーカレボー：売上増加率が世界平均を上回る(11/14)

スイスのチョコレートメーカーであるバリーカレボーは、2013年にシンガポールを拠点としていたペトラフーズのカカオ部門を買収したことにより、2013年8月～2014年8月までの1年間で売り上げを11.8%伸ばした。またバリーカレボー単独でも、世界のチョコレート市場の成長率が2.3%であるのに対し、第4四半期で2.9%の成長を達成している。新興国での継続的な経済成長により、全てのカカオ製品が売上増加に貢献している。総売上高は商品の売れ行き好調と、昨年比で原料であるカカオ豆価格が大幅に上昇したことを受け20.1%増加した。また粗利益も18.2%の伸びており、このことはバリーカレボーがよりおいしく、こだわった商品を開発し利益率を上げたことを示している。

バリーカレボーの責任者である Juergen Steinemann 氏は「我々はペトラフーズの買収により売上高を伸ばすことに成功した。しかしこの売上増加の最も大きなカギは新興国での需要増と、戦略的なパートナーシップを結んだことだ。バリーカレボー単体での2.9%増を達成し、我々は世界のチョコレート市場の平均的な成長率を上回っている。この2年、我々が特に力を注いでいるのは良い商品を作りマージンを増やすということだ。買収した初年度の売り上げが伸びたこともそうであるが、何より世界的なカカオ部門統合が成功したことが喜ばしい。」と述べた。

また彼は「短期的に世界経済をみると、依然として厳しい時期が続くだろう。それ故、我々はなるべくコストを抑えて引き締めていくことに注力しなければならないだろう。しかし我々の豊富な経験によって実証された長期的な戦略に基づいて、我々は多くのチャンスをもたせられると考えている。」と述べた。

#### 4、ガーナ：農家を悩ませている病害に対して、病気予防の施策を採用(11/13)

ガーナのカカオ研究所(CRIG)の事務局長である Gilbert Anim Oppong 氏は、より良い農業のために有効な手段を農家に施すことを認め、カカオ豆生産量を増加させることを促している。

彼は、ガーナの東部地区の大臣である Antwi-Bosiako 氏が CRIG を訪れた際、「農家が最も頭を悩ませているのは、Capsid 病やブラックポッド病である。」と訴え、Capsid 病にかかったカカオ樹木がいかにして枯死していくかを示し、農家がカカオを守るために農園を覆わないといけないことを説明した。

そして単に殺虫剤を使用することだけでなく、病気の予防方法を研究し、良い農業の方法を遂行していくことこそがカカオ豆生産増につながり、農家が持続可能な経営を実現できることを主張した。

しかし残念ながら、こうした機関が企画したワークショップで将来的な持続可能な経営の必要性を学んでも、目の前でおこっている病害に素早く対処するために殺虫剤を使用するなど、学んだことが活かされていないのが現状であり、この結果生産量があまり伸びず、残留農薬の問題が生じてしまう。

Bosiako 氏は CRIG の職員に対し、ガーナが世界最高水準のカカオ豆生産量を維持し、以前のように世界第一位の生産国に返り咲くように全力で力を注いでほしいと励ました。

*Capsid 病に侵されたカカオポッド*



ブラックポッド病



《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp